

仙台大年寺山地域の現況調査について

Investigation of "Mt Dainenji" in Sendai city

松山 正将* 花渕 健一* 菊地 清文* 佐伯 吉勝* 高橋 則雄**

by

○Tadamasa MATSUYAMA, Kenichi HANABUCHI, Kiyonori KIKUCHI, Yoshikatsu SAEKI and Norio TAKAHASHI

要旨：仙台市の「大年寺山」は、仙台藩の四代藩主伊達綱村が1695（元禄8）年に建立に着手した「両足山大年寺」に由来する。この時代の大年寺は、日本の黄檗宗三大叢林の一つと称される程の大伽藍であったと言われる。それ以前この地域は「茂ヶ崎」と呼ばれていたようで、北朝方の栗野氏が城を築き本拠地としていたと言われる。現在の大年寺山は風致地区に指定され市民の憩いの場となっているが、このように重要な歴史的空間であったことは意外と知られていない。本報告では、大年寺関連文献を参考に実地を視測し、大年寺関係構築物の位置関係を現況地形図上に複合させ、この地域の諸計画に資する情報づくりについて述べる。

1：はじめに

現在仙台市民が呼称する大年寺山は、江戸時代の仙台藩四代藩主伊達綱村が1695（元禄8）年に建立に着手した両足山大年寺に由来する。この時代の大年寺は、日本の黄檗宗の三大叢林の一つと称される程の大伽藍であったと言われる。それ以前のこの地域は茂ヶ崎と呼ばれていたようで、北朝（1336～1392年）方の栗野氏が城柵を築いて本拠地としており、この南北朝以後には結城氏が居住していたといわれている。図-1の左にその位置を◎印で、右に若干拡大して伊達家墓域（黒塗部分）と共に示す。

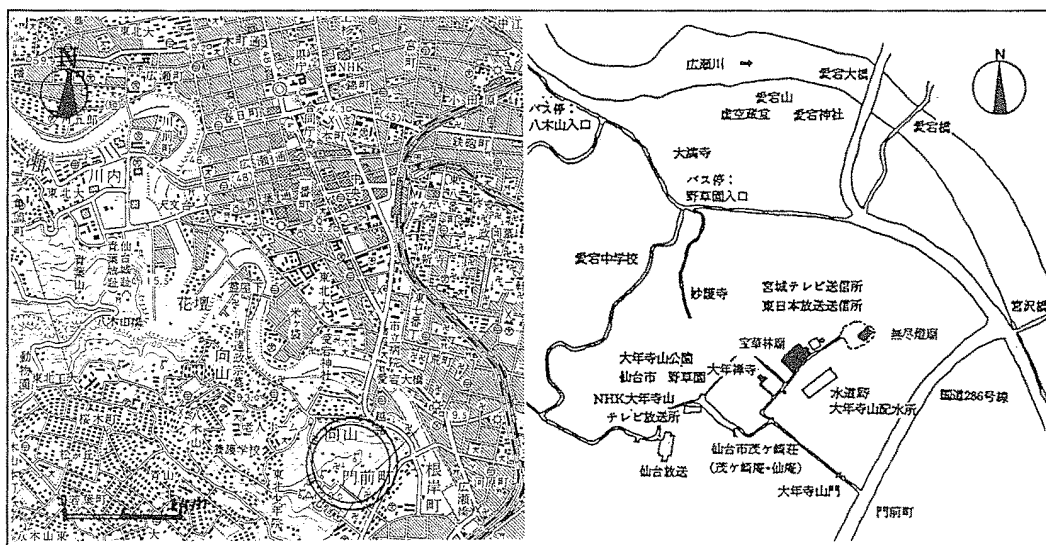


図-1 大年寺山周辺（左図は縮尺1／5万、右図は概略縮尺1／2500を縮小）

〈キーワード〉 土木史一般・仙台藩・大年寺・黄檗宗・寺域現況複合図

*正員 東北工業大学 工学部 土木工学科 環境測量研究室 982仙台市太白区八木山香澄町35番1号 ☎:022-229-1151 FAX:022-229-8393(学科専用)

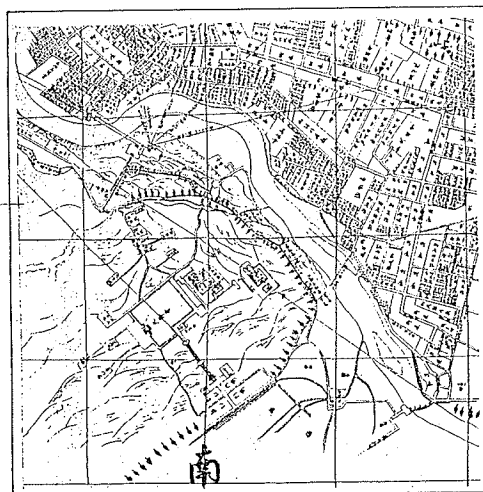
**正員 日本総合防水(株) 研究所 351埼玉県和光市新倉398番地 ☎:0484-65-1256

現在の大年寺山は風致地区に指定され市民の憩いの場となっているが、上述のように北朝から明治維新までの重要な歴史的空間であったことは意外と知られていない。今回、大年寺関連文献等を参考に現地の伊達家墓域の位置を観測し、絵図等に描かれている大年寺関連構築物の位置関係を現況地形図上に複合させ、この地域の啓蒙資料づくりをこころみたので報告する。

2：大年寺の概要と調査方法

大年寺の建築は大きく二期に分けて行なわれ【四代藩主伊達綱村の元禄時代（1688年～1709年）を中心としたものと、五代藩主伊達吉村の享保時代（1716年～1735年）を中心としたもの】大伽藍の体裁を整えたようで、大年寺山中には二十塔頭があり住僧三百人と言われている。綱村の没以降の大年寺には、伊達家歴代藩主（四代、五代、六代、七代、八代、十代、十二代、十三代）が祀られている。明治維新後は廃仏毀釈等により伊達家の庇護を失い、無尽燈廟、宝華林廟、惣門を残して全て廃絶してしまっている。

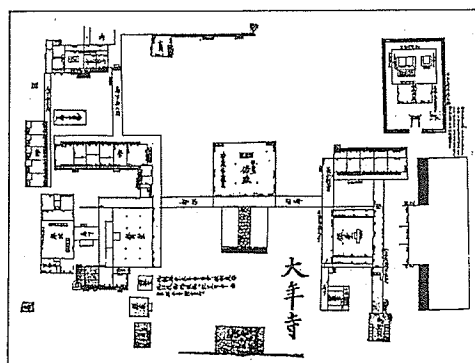
そこで大年寺関連構築物の位置を推測するために、表－1に示す絵図や地図上の大年寺に関する部分を収集しそれらに基づいて実地踏査を行い、現況の国土基本図に大年寺関連構築物の外郭柱位置等を重ねる方法を採用した。図－2は明治維新前の大年寺地域を示す④安政補正改革仙府絵図で、現在も残っている無尽燈廟、宝華林廟、惣門の位置関係を確認できる。図－3は伊達家作事方の①御修復帳の大年寺境内図である。



図－2 安政補正改革仙府絵図部分

表－1 参考絵図及び地図等

番	資料名と概略作成年
①	御修復帳の大年寺図 1716（享保 1）年頃
②	大年寺配置図 1782（天明 2）年頃
③	仙台北下絵図 1786(天明6)年～1789(寛政1)頃
④	安政補正改革仙府絵図 1856(寛政3)年～1859(寛政6)頃
⑤	改正仙台市明細全図 1889（明治22）年頃
⑥	仙台市測量全図 1893（明治26）年
⑦	仙台市全図 1915（大正 4）年
⑧	仙台市全図 1936（昭和11）年
⑨	仙台市地図 1938（昭和13）年
⑩	仙台市街明細地図 1952（昭和27）年
⑪	国土基本図 1985（昭和60）年



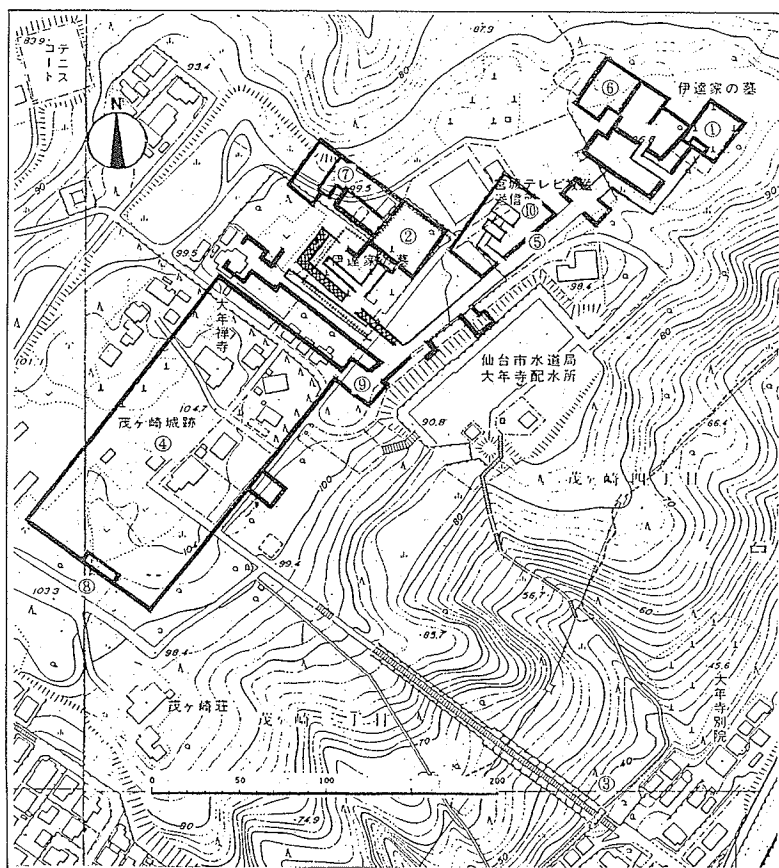
図－3 御修復帳の大年寺境内図

3：調査結果

当時の臨済宗派黄檗宗両足山大年寺の伽藍の広大さを表すものとして、御修復帳の大年寺外郭柱割りと、②の大年寺配地絵図の中に描かれている無尽燈廟、宝華林廟、惣門位置を現況地形図と重ねあわせて表現したものが、図－4の現況複合図である。この中で惣門は仙台市指定の有形文化財として、解体修復工事【1985（昭和60）年9月25日～1986（昭和61）年3月31日】が行なわれ現在に至っている。

この描いた現況複合図から推測する大年寺は、北西に約90m北東に約180mの広さをもち、現在の野草園前の駐車場から北側にある民家と太平洋戦争前に建てた位牌堂の辺りに位置していたものと思われる。大年寺の山門のあった辺りの標高は、約102m～103mである。大年寺の北東裏門から無尽燈廟まで続いていた参道は約240m、宝華林廟まで約70m程の距離となっている。現在この参道部分は、ある程度整地され碎石が施されて駐車場となっており、この東側に隣接して大年寺配水所構内が続いている。表－2に歴代仙台藩主と墓所位置を示す。

大年寺山の命名者とも言える四代綱村、五代吉村が祀られている無尽燈廟については詳細測量を実施した。



①無尽燈廟（奥の霊屋）②宝華林廟（前、中の霊屋）③惣門 ④大年寺
⑤参道 ⑥大幻庵 ⑦壽仙院 ⑧山門 ⑨裏門 ⑩吉村側室性善院の墓

図－4 大年寺関連構築物の現況複合図

表－2 仙台藩主の墓所

藩主	実名	法号	墓 所	藩主	実名	法号	墓 所	藩主	実名	法号	墓 所
初代	政宗	貞山	経ヶ峰 瑞鳳殿	六代	宗村	忠山	大年寺 宝華林	十一代	斉義	正山	経ヶ峰 妙雲界
二代	忠宗	義山	同 隆仙殿	七代	重村	徹山	同 上		十二代	斉邦	龜山 大年寺 無尽燈廟
三代	綱宗	龜山	同 善成殿	八代	斉村	桂山	同 上		十三代	慶邦	明治維新となり 神式となり法号 なし、大年寺宝華林廟
四代	綱村	青山	大年寺 無尽燈廟	九代	周宗	細山	経ヶ峰 妙雲界				
五代	吉村	獅山	同 上	十代	斉宗	英山	大年寺 無尽燈廟				

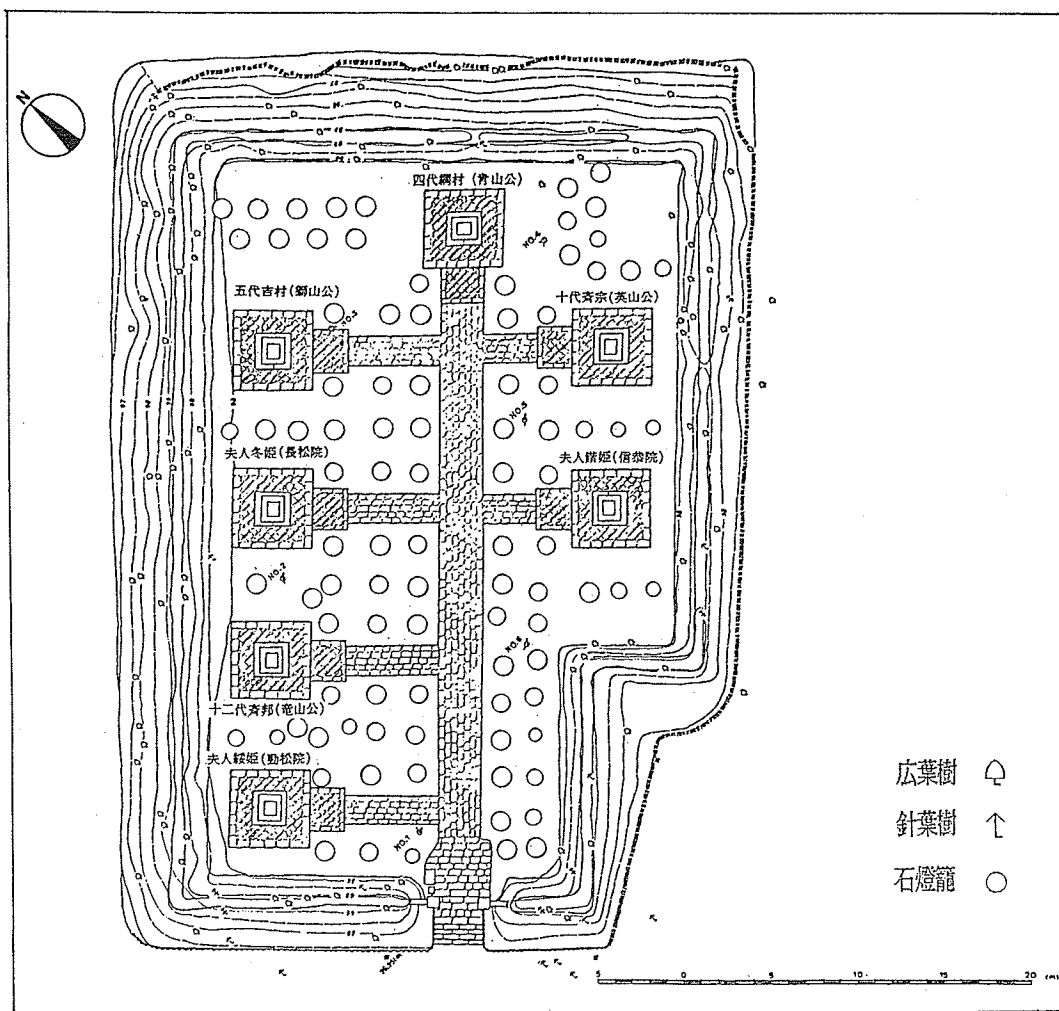


図-5 無尽燈廟現況詳細図 (縮尺1/100を縮小)

土囲内の標高は97.63m~98.09m、面積は約960㎡(約290坪)であった。また、地形図の墓石形状については個々に調査済みであるが概略同形であることから、四代綱村の墓石寸法を代表例として図-6に示す。

なお、1978(昭和53)年6月12日の宮城県沖地震により、ほとんどの石灯籠が倒壊し墓石にもずれや沈下を生じる等被害を受けている。

4: まとめ

大年寺関連文献を参考に現地調査で作成した現況複合図により、大年寺山

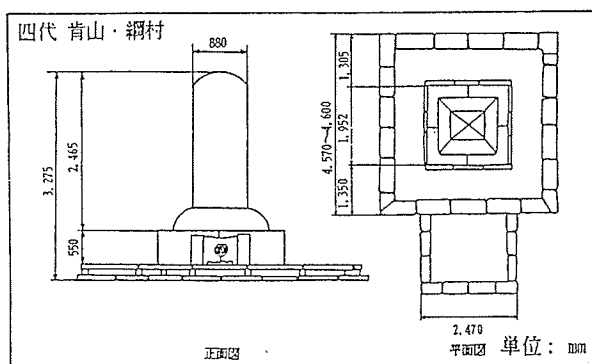


図-6 墓石正面及び平面図

は仙台市の重要な歴史的空間であることが再認識できた。また、無尽燈廟の細部調査を通して墓域の荒廃が進行していることも判った。宝華林廟についても、同じような調査が必要に思われる。

現在、仙台市は大年寺山全体を歴史的空間として公園化のゾーニングを計画しているようであるが、この大年寺山空間の貴重さについて、市民への啓発情報不足を指摘できることから、作成した現況複合図の活用も有用と思われる。

なお、この調査には本研究室1996年度卒業研究生の森 雅樹、山下哲一両君の協力を得て行なわれた。ここに感謝の意を表する。

5：参考及び引用文献

- *佐藤 巧監修、「仙台市指定有形文化財 大年寺惣門解体修復工事報告書」、仙台市教育委員会文化財課、共新精版印刷k k、1987年2月、
- *小林清治監修、「絵図・地図で見る仙台」、今野印刷k k、1994年1月
- *伊達篤郎、「伊達家のルーツと政宗」、南郷印刷、12 p
- *三原良吉、「茂ヶ崎と大年寺伊達家廟」、相原印刷、7 p
- *伊達泰宗、「伊達綱村以降歴代藩主の墓」、針生印刷k k、1996年10月、8 p